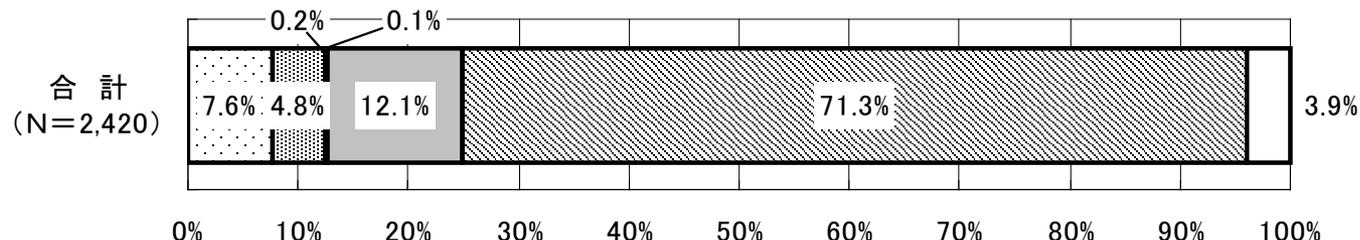


# 後期高齢者終末期相談支援料の検証結果② 満足度

## 後期高齢者終末期相談支援料に係る調査(平成21年5月中医協検証部会)

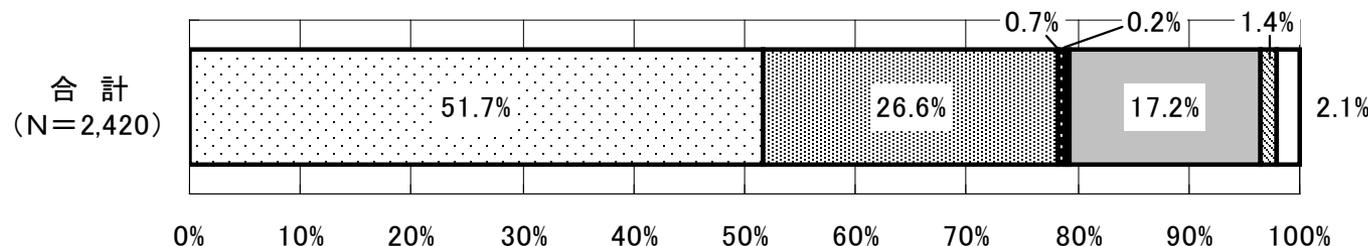
### (2) 話し合い後の患者・家族の状況(事例調査における医療スタッフの回答)

#### ① 本人の様子



- 話し合っただけでよかった
- どちらかといえば、話し合っただけでよかった
- どちらかといえば、話し合わなければよかった
- 話し合わなければよかった
- わからない
- 本人は話し合いに同席しなかった
- 不明

#### ② 家族の様子



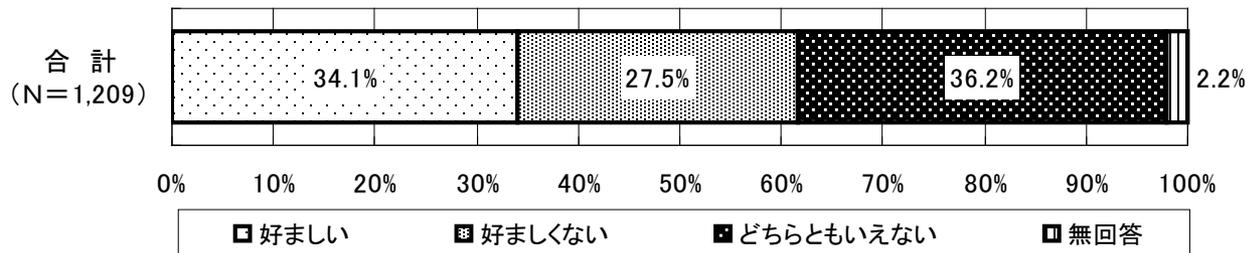
- 話し合っただけでよかった
- どちらかといえば、話し合っただけでよかった
- どちらかといえば、話し合わなければよかった
- 話し合わなければよかった
- わからない
- 家族は話し合いに同席しなかった
- 不明

# 後期高齢者終末期相談支援料の検証結果③ 費用への意識

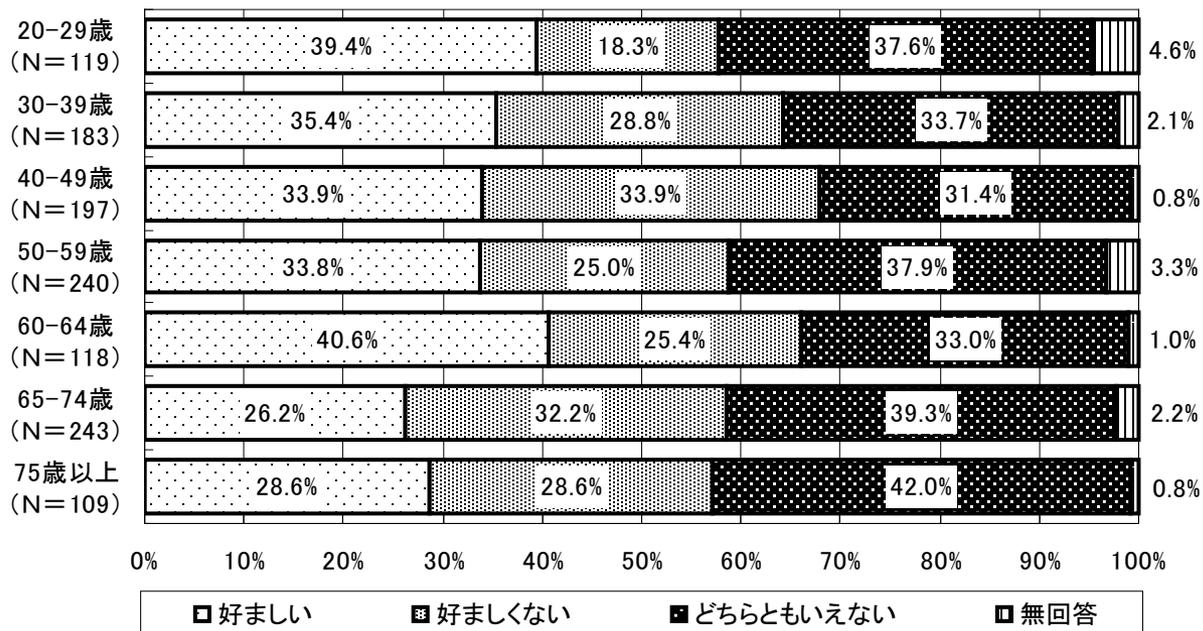
## 後期高齢者終末期相談支援料に係る調査(平成21年5月中医協検証部会)

### (3) 公的医療保険から医療機関に費用が支払われることに対する国民の意識

#### ① 全体



#### ② 年齢階層別



# 後期高齢者終末期相談支援料の検証結果④ 検証部会の評価

## (1) 国民の意識

- 終末期の治療方針等について「話し合いを行いたい」割合は84.7%と高かった。
- 一方で、公的医療保険から医療機関に対して相談料が支払われることについて「好ましい」が34.1%、「好ましくない」が27.5%、「どちらともいえない」が36.2%となり、意見が分かれた。

## (2) 患者本人の話し合いへの参加

- 事例調査において患者本人の参加が17.7%とさほど高くなく、話し合いの実際と一般国民の意識の違いが見られた。

## (3) 話し合いの影響

- 実際に話し合いが患者や家族にもたらした影響として、「不安が軽減された」「よりよい決定に生かされたようだった」等のプラスの影響が比較的多く見られた。

## (4) 診療報酬としての意義

- 平成20年7月より後期高齢者終末期相談支援料については凍結措置が講じられているが、一般国民に対する意識調査において、公的医療保険から医療機関に対して相談料が支払われることについては、「好ましい」「好ましくない」「どちらともいえない」がほぼ拮抗していることも踏まえ、そのあり方については今後とも引き続き検討を行う必要がある。

# 一般病棟に長期入院している高齢者の入院基本料について

